

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

東中学校区	校番 6	福山市立手城小学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月19日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力、コミュニケーション能力、やりぬく力、思いやり
<ul style="list-style-type: none"> 学校課題を的確にとらえ、教職員のみならず、児童・生徒にも課題、目標を自覚させ、効果的に取り組んでいる。 学校としての取組状況がよく分かり、達成状況も分かりやすい。 評価結果に基づく改善策も具体的で効果をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力は向上が見られる。 自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や力量が育ちつつあるが、十分ではない。 自分の考えや思いを相手に伝えるコミュニケーション能力に課題がある。 相手を思いやる心や自らを律する力に課題がある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	21世紀型“スキル&倫理観”を身に付け、自ら考え主体的に学ぶ子
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 東中学校区体育大会リハーサル交流会(校区小学校6年生による参観) 東中学校オープンスクール(校区小学校6年生による体験授業、体験部活動) E S Dの推進(部会の立ち上げと交流) 校区小中学校合同授業公開(毎年各学校持ち回り)

III 自校

ミッション
学校・地域・家庭が一体となって「ふるさと福山」に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる手城の子どもを育てる。
学校教育目標
自ら学び やさしく たくましく
現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査において、全5学年が全国平均を上回ることができ、基礎学力は定着しつつある。しかし、引き続きより確かな学力をつけていく必要がある。 自ら課題を見付け追及したり、コミュニケーションをとりながら学び合い、表現活動をしたりすることに課題がある。 校内では、規律ある行動ができ、落ち着いた学校生活を送ることはできている。一方で、校外での生活は、校内の生活が活かされていない。また日々の集団生活の中で、相手の立場に立った言動ができにくい児童も見られる。 体力づくりでは、いくつかの項目において県平均を大きく上回ることができた。欠席率も減少はしたが、欠席する児童は固定化している。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習のプロセス ワン・ツー・スリー」は定着しつつある。 ペア・グループ学習を質的に高めるための、教師の発問構成に課題がある。 体験的活動や協同的学習の場や工夫が不十分である。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 課	コミュニケーション能力 回	やりぬく力 回	思いやり 回
低学年	学習や生活の中から進んでふしぎを見つけ出す子	自分の思いや考えを、進んで相手に伝える子	自分のやるべき勉強や仕事を継続して行う子	友達の気持ちが分かる子
めざす子ども像 中学年	進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子	ペアやグループで、互いの思いや考えを伝え合う子	自分で決めた目標に向け、強い意志をもち、粘り強くやり抜く子	相手のことを思いやり、進んで親切にする子
高学年	自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子	伝え合いを通して、自分や友だちの考えをよりよいものにする子	より高い目標を立て、困難があってもくじけず、努力を続けてやり抜く子	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子
研究	教科等 主題・ 内容等	道徳 図画工作		
めざす授業の姿	<p>自ら考え学び、自分の思いをいきいきと表現できる児童の育成 ～一人一人のよさや感性に学び合う授業づくりを通して～</p> <p>自らの学びを自覚することができる授業 ～「分かった」「できた」の実感から「もっとやりたい」へ～</p> <p><学びのプロセス ワン・ツー・スリー>と<単元学習>の全学級展開</p> <p>①児童とともに学習のめあてを設定する。 ②話し合いたくなる場とつぶやき合う場をつくる。 ③個々の学習の達成状況を自覚させる振り返りをさせる。</p> <p>道徳：深く考え、議論する中で、新たな発見をする道徳授業 図画工作：対話の場面を効果的に取り入れ、充実感のある図画工作科授業</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立手城小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る取組状況	70点評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70点評価	達成評価	総合評価	改善方策	
2	確かな学力 基礎・基本の定着と「主体的・対話的な深い学び」の実現	★	継続	(全学年、記述式学力調査全国平均以上) 課 目 別	自ら学び、表現する力を身に付ける。	○総合的な学習の時間・生活科(ふるさと学習)と教科等の関連を明確にした単元計画を作成する。	○2単元以上の単元計画を作成し、課題追究の結果としてのカルタづくりやプレゼンを行う。	【単元計画の作成】 □各学年、2単元以上単元計画の作成ができているので、すでに100%達成となっている。 □総合的な学習の時間と生活科に関して、教科等の関連を明確にした単元計画を本年度、全単元において作成した。	4	4	○3学期には課題追究の結果として、カルタ作りやプレゼンを行う。(参観日において公開する)	【単元計画の作成】 □各学年、総合的な学習の時間及び生活科の全単元の単元計画を作成することができた。	4	4	3	○全学年が2月の参観日において、総合的な学習と生活科の授業を公開し、保護者に向けて成果を発表する。
						○自らの学習課題をもとにした「チャレンジノート」に取り組む。 ※「チャレンジノート」…自主学习ノート	○学習課題を明確にしたノート 低P220→50%以上 中P290→80%以上 高P360→80%	【学習課題を明確にしたノート】 □目標に対して、現時点では低学年では160%、中学年では56%、高学年では104%達成である。特に中学年の達成率が低い。 □平均のページ数は、低学年で166ページ、中学年で147ページ、高学年で244ページであり、どの学年も平均ページ数においては目標を達成していることから、個人差が大きいことが分かる。	3	3	○自主学习が進んでいる児童はかなり進んでいるので、ページ数だけにこだわらない自己課題追究のチャレンジノートへの転換を行う。	【学習課題を明確にしたノート】 □達成率が低い学年も、3月には達成できる見通しである。 短期経営目標達成状況 ◎学力調査の結果 (全国平均以上) 国語(4/6学年達成) 算数(3/6学年達成) 理科(3/4学年達成) 達成度62%	3	3		○チャレンジノートにおいては、多くの児童が意欲的に取り組めるようになってきた。しかし、内容の個人差が大きいので、チャレンジノートのモデルを示すなど、内容面の充実を図らせていく。 ○標準学力調査においては、各学年の課題を分析し、学年末までに弱点分野の指導を行う。また、その内容を学年通信等で保護者に向けても啓発を行う。

★ 継続 (授業で話し合うこと、考えること、書くこと、振り返ること)の割合が80%以上(7)課	学習者の視点に立った授業改善を行う。	○児童にとって、つばやきたくなる場、話し合いたくなる場の設定をする。	○対話活動等によって学習が深まったという児童80%以上	【対話によって学習が深まった児童】 □挙手発表にこだわらない授業スタイルに転換をしたり、ペアトークをはじめ対話の場面を多くしたりする授業の工夫を行った。その結果、授業中の対話によって学習が深まったと捉える児童は、84%であり、ほぼ目標を達成することができた。	3	3	○3学期の授業公開に向けて、各学年で授業交流を行い、協働して切り返し発問・補助発問を練る場をもつ。 ○対話によって、本時での学習が深まった実感もてるよう、授業後のふり返りに対話からの気づきや学びを書くよう促す。	【対話によって学習が深まった児童】 □1月の授業公開に向け、学年で協働して発問を練り、事前授業で対話の深まりを検証した。その結果、授業中の対話によって学習が深まったと捉えた児童は、84%となった。	4	4	○学年によっても差に開きがある。引き続き、学年で協働して中心発問や補助発問を練ったり、授業を見合う機会を設定したりしていく。
	○道徳において、毎時間、導入の工夫と深く考えるための発問を練った道徳シートを作成する。	○課題設定、対話、ふりかえりについてできた児童80% (国語と道徳においてアンケート実施)	【課題設定、対話、ふりかえりができた児童】 □国語科の物語文、説明文単元において、児童と共に学習計画を立て、対話を中心とした授業づくりに取り組んだ。その結果、学習のめあて、対話、ふり返りの3項目において全て目標を達成することができた。道徳科においては、授業の事前シートを作成して授業を行った。その結果、3項目において、ほぼ目標を達成することができた。学年による差が大きいことが課題である。	3	4	○主体的な学びの授業を意識し、①導入の工夫②待つ・任せる場③児童自身のふり返りのある授業づくりを行う。 ○授業のめあてを児童が主体的に設定できるよう、導入の工夫を行い、必然性のある課題設定ができるようにする。	【課題設定、対話、ふりかえりができた児童】 □主体的な学びを意識し、「導入の工夫」、「待つのふり返り」を意識した授業改善を行った結果、どの項目においても中間アンケートより成果が見られた。 <u>短期経営目標達成状況</u> ○児童アンケートにおいて、授業で話し合うことや考えることが楽しいと捉えた児童は67%で、達成度84%であった。	4	4	○児童が、授業で話し合うことや考えることが楽しいと捉えられるように、めあての設定・対話・ふり返りの方法を見直す。興味を引く導入やめあての設定、必然性のある対話活動。学んだことを実感できるふり返りの場を設定していく。	

<p>2 豊かな心 規範意識や自己感育成生徒指導の推進</p>	<p>★ 継続 (学校が楽しいと回答する児童90%以上) (長期欠席者昨年比0.6%)</p>	<p>規範意識を高め、学校生活をよりよく過ごす力を身に付ける。</p>	<p>○規律三要素の徹底へ向け、児童会を中心に、各学級で取り組み、全校での評価の場を設ける。</p>	<p>○「あいさつ」「身だしなみ」「だまってそうじ」ができる児童を90%以上にする。</p>	<p>【3つの重点項目が守れた児童】 【あいさつ】 □毎朝、児童会役員と教職員が、正門に立ち、あいさつ運動を行った。重点月間には、すすんであいさつできた児童にシールを配ったり、あいさつリーダーにバッジを付けさせたりして、意欲の向上を図った。 【だまってそうじ】 □掃除時間に校内放送をして評価したり、親子清掃をしたりして、意欲を高めた。たてわりそうじを仕組み、高学年に手本を示させ、全校へ定着させた。 【身だしなみ】 □毎朝、教職員が、正門に立ち、点検を行った。名札を忘れていた児童には、家庭と連携したり、紙で作った名札を貼らせたりする等して意識を高めた。</p>	<p>3 3</p>	<p>○あいさつ運動で手本を示したり、シール等で意欲づけしたりする取組を継続する。校内放送に対して返事をしたり、大きな声で歌ったりする等、大きな声を出すことを教育活動全体を通して取り組む。 ○児童会の月別目標として強化月間として仕組み、よくできている学級について表彰する。あまりできていない学級には他の教職員で支援に入ったりする。 ○生徒指導規程の改訂に向けて、各学級で主体的な話し合いをさせる。そのことにより、きまりには理由があることに気づかせ、きまりを守ろうとする意欲を高める。</p>	<p>【3つの重点項目が守れた児童】 【あいさつ】 □毎朝、児童会役員と教職員が、正門に立ち、あいさつ運動を行い、すすんであいさつできた児童にシールを配った。校内放送に対して返事をしたり、大きな声で歌ったりする等、大きな声を出すことを教育活動全体を通して取り組んだ。 【だまってそうじ】 □毎日、掃除時間に校内放送をして評価した。11月に「だまってそうじをしよう」を児童会の重点目標として取り組み、各学級で点検し、児童会役員が結果を放送したり、表彰したりした。 【身だしなみ】 □4～6年生において、生徒指導規程の改訂に向けて各学級や児童会で主体的な話し合いをさせた。それらの話し合いをもとにして、保護者に啓発したり、教職員で指導方針を共通理解したりした。</p>	<p>3 3</p>	<p>4</p>	<p>○新しい児童会役員や登校班長へのあいさつ指導を行い、毎朝のあいさつ運動を改善する。各学級であいさつリーダーを選出し、休憩時間にもあいさつ運動を行う。 ○掃除時間の校内放送を継続する。2月にたてわり掃除に取り組み、異年齢で活動することによる緊張感や新たに班長になる5年生の意欲を生かして指導する。 ○学級活動の基本的な生活習慣の形成や特別の教科道徳の礼儀などの時間に、身だしなみを整える方法や意義について、主体的、対話的に考えさせる。</p>
-------------------------------------	---	-------------------------------------	--	--	--	------------	---	---	------------	----------	---

		<p>○児童に個人目標を持たせ、ふり返らせながら、児童とともに創る学校・学年・学級行事を行う。</p>	<p>○自分や友だちのよさやがんばりに気づく児童を80%以上にする。</p>	<p>【自分のよさに気づく児童】 □遠足や体育発表会等の学校行事を、たてわり活動にし、児童主体の行事になるようにした。事前に、リーダー会を開く等して、入念に準備し、成功体験を積ませた。</p>	4	4	<p>○学習発表会に向けた練習において、児童の日記を読んだり、がんばりを連絡帳に書いて保護者に伝えたりして、積極的に肯定的評価を行う。また、練習内容をスモールステップ化し、児童に日々の成長を実感させるとともに、掲示して可視化する。</p> <p>○12月の児童会目標としてよいところ見つけに取り組み、児童一人ひとりの具体的ながんばりについて、校内放送したり、掲示したり、各種通信に掲載したりする。</p>	<p>【自分のよさに気づく児童】 □学習発表会に向けた練習において、楽器演奏の習熟について細かく把握し、困っている児童については放課後に補充練習を行った。また、学年練習において、児童に日々の成長を積極的に評価し、掲示による可視化を行った。</p> <p>□12月の児童会目標としてよいところ見つけに取り組み、児童一人一人のがんばりをお互いにハート形の紙に書いて「仲よしツリー」として掲示したり、給食中に校内放送したりした。なかよし集会やドッジボール大会等、異学年交流の行事に取り組み、児童主体の話し合い活動を充実させた。</p> <p><u>短期経営目標達成状況</u> ◎児童アンケートにおいて、学校が楽しいと回答した児童は89%で、達成度は98%であった。</p> <p><u>短期経営目標達成状況</u> ◎1月末現在、30日以上欠席している児童数は、9名である。これは、昨年度比0.6の数値である。</p>	4	4	<p>○2月に教育面談週間を設定し、学級担任が児童一人一人と面談し、がんばりをねぎらったり、よさを認めたりする。その後、学級活動や総合的な学習の時間、生活科の学習において、児童一人一人の成長を振り返らせ、キャリアノートやポートフォリオに記録させる。</p>
--	--	---	--	--	---	---	--	---	---	---	--

2	健やか な体 健康・体力 づくりの 推進	継続 (新体力テスト項目平均または全国平均以上のレベル)課 や	自分の健康に関心を持ち、進んで体力づくりに取り組む力をつける。	○学級遊びを月2回以上実施する。	○学級遊びを2回以上の実施率を100%にする。	【学級遊び】 □低学年は担任が主体となって、学級で遊ぶ機会と大勢で遊ぶ楽しさを経験させている。また、2年生は、係活動として少しずつ自分たちで活動できるように指導している。3年生以上は、係活動として、児童が主体となって週1回以上活動している。	4	4	○継続して学級遊びを行うように、各学級で係活動の促進を図る。	【学級遊び】(10~12月:月2回→計6回) □1年生は担任が中心となって、学級で遊ぶ機会と大勢で遊ぶ楽しさを経験させている。また、2年生は係活動の幅が広がり自分たちで計画することが増えてきた。3年生以上は、係活動の一環として児童が主体となって学級遊びを計画している。 □ロング大休憩を利用した大縄大会等の実施で、外で遊ぶ楽しさを体験させている。	4	4	○継続して学級遊びを行うように、各学級で係活動の促進を図る。 ○ロング大休憩を月1回実施し、外遊びの時間を増やす。
				○体力アップ大作戦のミッション1を学期に10回以上実施する。 ※「ミッション1」とは、体育科の時間(5~10分間)に体力向上に向けた基本的な運動を行うこと。	○学期に10回以上の実施を100%にする。	【体力アップ】 □低学年の体力アップは、体操を確実に力いっぱい行うことで基礎体力の向上を図っている。高学年は、ショートダッシュやサーキット、上体起こし等、重点を置いて指導している。	4	4	○継続して実施するために、単元に即した具体的な活動を提示していく。 ○低学年には、単元に必要な動きを遊びの要素を混ぜて提示し、基礎体力の向上に努める。 ○高学年には、具体的な動きのポイントを伝えていく。	4	4	【体力アップ】 □2学期はどの学年も縄跳びやランニングに重点を置いて指導している。 短期経営目標達成状況 ◎新体力テストの県平均以上は、男子74%、女子64%、全校69%で、達成度は92%であった。ボール投げに課題がある。	4

2	市民から信頼される学校 保護者・地域に開かれた学校づくりの推進	継続	情報発信を積極的に行い、保護者・地域の理解と協力を促す。(目標達成率90%)	○HPの更新と学校だより・学年(学級)だよりを発行し、児童の頑張りを発信する。	○HPの更新と、学校だより、学年(学級)だよりの発行を月2回以上行う。	【通信】 □行事の前後だけではなく、普段の授業の様子や生活の様子を伝える通信を発行するように心がけている。 □学校だより、保健だより、食育だよりは月1回以上発行し、その他生徒指導主事より、生徒指導だよりも発行し、生徒指導や生活指導のことについて啓発している。 □ホームページは、リアルタイムに行事の写真を載せるなど週3回程度更新を行っている。	4	4	○引き続き、ホームページの更新や各種だよりの発行を行い、小学校の様子を知らせていく。 ○学年(学級)通信の内容を工夫し、児童のがんばりを積極的に伝えていく。	【通信の枚数】 □児童の様子を写真で紹介したり、日記や作文を載せたりして、学級での取組を様々な方法で伝えることができた。 □これまでに学校だよりを26号発行し、保健だより、食育だより、生徒指導だよりは月1回以上発行することができた。 □ホームページは、週3回以上更新し、学校での取組や児童の様子を随時知らせることができた。	4	4	5	○学年通信や学級通信を掲示し、学年間で内容や書き方を共有することで、通信の発行数の差をなくしていく。 ○より多くの保護者に学校の取組を知ってもらうために、学校だより等でホームページの紹介をする。
				○業務改善を進め、元気で子どもと向き合う職場環境をつくる。	○教職員の「やりがい」肯定的評価 90%以上	【「福山100NEN教育」アンケート】 □教職員の「仕事にやりがい(意欲)を感じている」の肯定的評価は83.5%で、達成度は92.7%であった。	3	2	○子どもたちへの指導に力を注げるように、会議の精選などの業務改善を行う。	【「福山100NEN教育」アンケート】 □教職員の「仕事にやりがい(意欲)を感じている」の肯定的評価は91.7%で、達成度は101%であった。	4	4		○会議の内容を精選し、効率よく仕事を行えるように業務改善を図り、働きやすく、意欲的に教育活動に取り組める職場環境をつくる。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。